

大雨の時にどう逃げる_個人ワーク_あなたの「避難」_シナリオ

P.	タイトル	説明概要
1	教材の紹介	みなさん、こんにちは！ この教材は、あなたの避難を明らかにするため、ワークシートを使って手を動かしながら、あなたがいつ、どこへ、避難するかを考えていきます。
2	ワークの準備	まずは、作業の準備です。 ひとつめは、ワークシートです。 この動画教材の枠外に関連リンクを記してあるので、そこを選択し、記入できるよう紙に印刷して、机の上においてください。 筆記用具も忘れず準備しておきます。 ふたつめは、お住いの市区町村が発行しているハザードマップです。水害や土砂災害の危険を確認できるよう、各家庭に配布されているハザードマップを手元においてください。市区町村のホームページで公開しているハザードマップを使う場合は、画面に表示させてください。 なお、ハザードマップは、それぞれの自治体で、色使いや表現が異なっているので、この教材では、国土交通省の「重ねるハザードマップ」を使って説明します。 準備ができれば、次へすすみます。
3	ワークシート	最初に、ワークシートについて、説明します。 ワークシートの流れに沿って、災害リスク、避難先、避難行動、いつ避難するか、というステップを踏むことで、いつ、どこへ避難するかが明らかになります。 それぞれのステップの質問に、「はい」か「いいえ」、で答えることで、次のステップへ進めるようになっていきます。質問に対応している表で確認、記入をして、質問に回答し、流れを進めていきましょう。
4	「災害リスク」を確認しましょう	それでは、「災害リスク」の確認から、始めていきましょう。 水害と土砂災害に絞り、「重ねるハザードマップ」を使って説明します。
5	重ねるハザードマップ	まず、はじめに、重ねるハザードマップを表示します。 この動画教材の下にリンクがあるので、そこを選択すると画面のように表示されます。色のついているところが災害リスクのある区域です。 次に、自宅の住所を入力してください。

		そうすると、表示する候補が表示されるので、自宅に近い候補を選択してください。 選択画面は邪魔なので、×印を押して消してください。 あなたの自宅がだいたいわかる程度に拡大しながら、自宅付近が、真ん中の＋印に合うように画面を動かします。 拡大しすぎると、災害リスクや避難先の検討がしづらくなるので、右下に表示される距離のスケールバーを 100 メートル以下にならないようにしてください。 次に、災害リスクを確認します。 右上の虫眼鏡の中に危険の「危」が書かれたアイコンを選択し、自宅の場所付近である＋印のところで左クリックしてください。スマートフォンでご覧になっている方は、左上の「情報」と書かれているボタンから「便利な機能から検索」を押すと、危険の「危」が書かれた機能が選択出来ます。 その場所の自然災害リスクが表示されます。 虫眼鏡が黄色くなっている項目が、その場所で想定される自然災害のリスクです。 この例では、「洪水によって想定される浸水深」と「土砂災害の危険性」が該当しています。 また、浸水の深さは、0.5 から 3 メートルです。 この教材では説明しませんが、一番下に示されているあなたの市区町村が発行しているハザードマップも使って、必ず、あなたの災害リスクを確認してください。
6	あなたの災害リスクを記入	確認した結果を、ワークシートへ記入してください。 ハザードマップで表現されていない危険な場所もあります。 川の近くや周囲より低い場所、がけの近くなど、自宅の周囲に危険な場所が無いかも考えながら、記入しましょう。
7	「災害リスク」がある場合、どうしたらよいでしょうか？	自宅に災害リスクはありますか？という質問に答えられたと思います。答えが「はい」、災害リスクがある場合、どうしたらよいでしょうか？ 「難」を「避」ける、つまり、「避難」が必要です。 次のステップで、避難先を確認しましょう。
8	自宅に災害リスクが無い方	「いいえ」と答えた方。安全な場所にいる人まで、避難する必要はありません。ただ、災害リスクを見逃しては大変です。改めて、ハザードマップで表現されていない災害リスクも含めて、確認しておきましょう。
9	避難先を確認しましょう	それでは、次のステップです。避難先を確認しましょう。

10	自宅を離れた避難（立退き避難）が必要か？	自宅に災害リスクがある方の避難先について考えてみます。 まず、水害、土砂災害それぞれにおいて、条件に該当するか確認します。この条件に一つでも該当すれば、立退き避難が必要です。 ひとつずつ確認してゆきます。
11	家屋倒壊等氾濫想定区域の確認	まず、水害リスクのある方です。 家屋倒壊等氾濫想定区域か確認します。 川が氾濫したときに水の流れが激しく、家が倒壊するおそれのある区域です。 重ねるハザードマップの「洪水アイコン」を選択されていることを確認し、下へ移動させて「家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)」「家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）」の両方を選択します。 地図上に赤色の区域が表示されたら、これが家屋倒壊等氾濫想定区域です。自宅がその区域に入っていたらチェックです。
12	立退き避難が必要な条件の確認	次は、浸水した場合に、あなたの部屋まで水が来るかを確認します。 災害リスクのところで確認した「浸水の深さ」を見て、判断してください。 あなたの部屋にまで水が入ってきそうなら、チェックです。 最後に、水・食料等の備えが十分かどうかです。備えが十分であると判断できないなら、チェックです。 土砂災害のリスクがある場合に確認する条件は、1つです。 崩れてくる土砂の勢いはすさまじく、家を破壊してしまいます。自宅が、十分堅牢なマンションの上層階でないなら、チェックです。 ひとつでもチェックのある方は、自宅を離れて安全な場所へ移動する「立退き避難」が必要なので「はい」となります。
13	立退き避難が必要ですか？	「はい」と答えた方は、立退き避難が必要となります。「いいえ」と答えた方は、自宅に留まることも可能です。ただし、災害リスクのある場所ですから、万が一に備えて、安全確保が必要です。水や土砂から逃れるため、少しでも上の階へ、山や崖等から離れた部屋へ移動することが必要です。 自宅に留まることに、不安や危険を感じるようなら、早めに自宅を離れて安全な場所へ立退き避難してください。 次に避難先を考えてみましょう。
14	安全な場所にいる親戚や知人の家	まずは、災害リスクのない、安全なところに住んでいて身を寄せられる親戚や知人がいますか？ 災害リスクのない、安全なところかどうかは、自宅と同じ方法で確

		認できます。
15	指定緊急避難場所	次は、市区町村が指定している、指定緊急避難場所を記入してください。 重ねるハザードマップで確認する方法を説明します。 左にある「選択中の情報」で「すべての情報から選択」を選び「指定緊急避難場所」を選択してください。 何の災害リスクから逃れるか選んで、地図上に「指定緊急避難場所」を表示させてください。 選択画面は邪魔なので、×印を押して消してください。 表示されたマークを選ぶと、名前が表示されます。対象としている災害の種別にも注意してください。
16	立退き避難の避難先	親戚や知人の家、指定緊急避難場所を記入し、複数ある場合はそれぞれの避難先を決めて記入をします。 記入例を参考に、記入してください。
17	避難行動を確認しましょう	避難にかかる時間によって、避難のタイミングは変わります。 ここで確認しておきましょう。
18	避難行動を考えてみましょう	あなたは、だれと一緒に避難しますか？ 移動手段は何ですか？ 準備や移動にどの程度の時間が必要になるかも記入してください。 大人が1 km歩いて移動するのに、15 分程度必要と言われてます。お年寄りや障害のある方、小さな子供など、避難に支援が必要な方と一緒に避難する場合は、普段より時間がかかります。記入例を参考に、記入して下さい。
19	いつ避難すればよいのでしょうか？	記入出来ましたか？それでは、いつ避難すればよいのでしょうか？避難にかかる時間で、避難のタイミングは変わります。次のステップで確認しましょう。
20	いつ避難するか確認しましょう	これが最後のステップです。早速確認していきましょう。
21	予測が困難な災害リスクはありますか？	まず、自宅の災害リスクについて、あらためて確認します。 自宅は、急激な水位上昇のおそれがある河川のそばですか？ 土砂災害のおそれがある場所ですか？ これらは、思いがけず急激に状況が悪くなるおそれがある災害リスクです。 ひとつでも条件に当てはまれば、早めの行動が強く望まれますので、「はい」となります。
22	避難するタイ	避難に時間がかかる人、予測が困難な災害リスクがある場所の人が

	ミング	避難するタイミングは、警戒レベル3「高齢者等避難」が発令されたときです。 それ以外の人が避難するタイミングは、警戒レベル4「避難指示」が発令されたときです。
23	参考とする防災気象情報	警戒レベルに対応した、市区町村が発令する「避難情報」で確実に避難することが重要です。 「避難情報」が発令されていなくても、気象庁などが発表する防災気象情報を参考にして、自主的に早めの避難を判断することも重要です。 最後に、どのような防災気象情報が参考になるかを考えます。 参考資料や記入例も参考に、記入して下さい
24	ワークシート完成	防災気象情報の記入ができれば、 ワークシート完成です！お疲れ様でした！ このワークシートで明らかになったのは、大雨のときの皆さん自身の「避難行動」です。人それぞれ、おかれている状況が異なりますので、ワークシートに書かれた内容も、人それぞれ異なるのが普通です。無理に同じにする必要はありませんが、他の人の話を聴くなどして、有効な方法だと思ったら、積極的に取り入れてください。
25	まとめ	「自らの命は自らが守る」という意識を持ち、自らの判断で避難行動をとる！ いざというときに焦らないよう、身近にある「災害リスク」を認識し、いつどのような行動をとるべきか、日頃から確認しておく！ とても大事なことなので、どうか忘れないでください！ そして、この教材で学んだことを、ぜひ、周囲の方にも広めてください。 それでは！